

お母さんの^{しあわせ}幸福

文部省選定 東京都教育委員会選定 都民映画コンクール教育映画銀賞 全日本PR映画コンクール入賞
〔推薦〕青少年映画審議会 日本PTA全国協議会 結核予防会 中央児童福祉審議会 東京都教育委員会 全国地域婦人団体連絡協議会 主婦連合会 日本青年団協議会 東京映画愛好連合 よい映画をすすめる会 都下大学学生映画連盟

結核予防をテーマにしたこの映画は、戦後になってもなお、日本人にとって「結核」が死亡順位の上位をしめる、まだまだ危険な病気だったという背景のもとに作られた。



平和な家庭だったが、お母さんが突然肺結核になって、お父さんも、お姉さんも小さな子供たちもガックリしてしまった。医者は入院をすすめたが、お母さんは家のことが心配で自宅療養に決めた。

そこで、家の中では大革命が起きた。子供たちは勉強部屋をお母さんの病室として明け渡し、お姉さんは会社を休んで家事万端からお母さんの看護を引き受けた。お父さんも買い物から掃除など、つとめて協力するようになった。

4つになる良二と小学生の洋子にとって何よりも辛いことは、お母さんの病室へ入れないことだった。お父さんでさえ「もう、お母さんのお休みの時間よ」といわれれば黙って病室を出なければならぬ。お母さんも「お父さんのワイシャツにアイロンかけた？」「今日のお弁当のおかずは？」と気が気でない。

こんなある日、幼い良二はお母さんの病気を治したい一心で、近所で病人をなおしていた祈禱師を連れてきたが、お姉さんに叱られ、泣きだしてしまった。不自由で、心配で辛いことが多いお母さんの闘病生活の間、皆ががんばったかいがあつて、お母さんは次第に健康を取り戻していった。そして、お母さんも家族も、昔のお母さんやお父さんや子供たちではなくなっていくた。

1958
作品ナンバー0015

劇
35ミリ
白黒／49分

- 企画
(財)結核予防会
- 協賛
中外製薬株式会社

スタッフ

- 製作
村山英治
- 脚本
片岡 薫
西沢 裕
- 監督
木村莊十二
- 撮影
牛山邦一
- 音楽
池野 成

- 出演
お父さん：坂本 武
お母さん：堤真佐子
お姉さん：川口のぶ
洋子： 都筑みどり
他